



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 篠崎英夫

世界精神保健行動計画

今年の8月に、WHO（世界保健機関）は「世界精神保健行動計画2013-2020」の一次案を発表しました。今は所謂、パブコメ中ですが、基本理念として「精神的に健康でなければ健康であるとは言えない」をかかげ、ターゲットとして8項目を挙げています。このうち、我が国の現状に深い関連性があるものとしては、次の様なものがあります。

1. 2020年までに精神科病院において長期入院に使用されているベッド数を20%削減しその分をコミュニティベースの介護施設や居住施設のために利用できるようにする。
2. 2020年までに各国の自殺率を低下させる。

WHOは我が国の精神保健医療福祉対策にこれまで各種のアドバイスをしてきました。特に1968年5月に出されたクラーク勧告は有名です。ドクタークラークは3ヶ月にわたり全国8都市を回りましたが、その中で松本の城西病院を視察し、市民への広報活動や夜間のホステルの活動を称賛しています。WHOの動きを先取りして、地域に根ざした病院作りに邁進したいと思います。

表紙写真

写真タイトル：「冬の安曇野」 撮影者：薄井尚介（ミサトピア小倉病院院長）

撮影者のコメント：通勤途中、雪をかぶった常念岳が目にとまり撮影しました。

精神科病棟だより

統合失調症の薬物治療について

副院長 桑村 智

今回は統合失調症の薬物治療について触れてみたいと思います。個人的なことではありますが、医師として20年近くの時を経て、それなりに臨床経験を重ねてきたつもりではありますが。しかし現在も患者さん個々の病状の変化や周囲に及ぼす影響を目の当たりにして悩む日々が続いています。

この十数年は薬物療法が飛躍的に進歩し、統合失調症治療の中心と言って良いと思われれます。特に第2・第3世代の非定型抗精神病薬の功績は、定型抗精神病薬による治療では免れることのできなかった、錐体外路症状を始めとした副作用の多くを取り去ったことにあります。もちろん軽度の錐体外路症状や糖代謝異常などの副作用があるのですが、出現頻度は比較にならないほど低くなっています。

治療効果については、幻覚・妄想などの精神症状は定型抗精神病薬にほんの少し及ばないものの、臨床的には十分有用と言えます。また、以前は薬物療法では改善することが難しかった感情鈍麻・意欲の減退などの残遺状態についても少なからずの効果が見られます。

ただし、薬物療法を定型・非定型と単純に二つに分類するには無理があります。全ての抗精神病薬はそれぞれ個々に作用点異なるからです。専門家はプロフィールと呼びますが、その特性は実に様々です。このため複雑な精神症状に対しては効果的なプロフィールを持つ薬剤を複数重ねることがあります。多剤併用処方では過去においても「カクテル処方」と揶揄された経緯もあり、好ましいものではありません。薬物療法は可能な限り単剤で少量の処方を目指しているのですが、激しい精神症状を目の当たりにするとどうしても複数の薬に頼らざるを得ない現実があります。この点については当面の課題として医療者を悩ますことになるでしょう。

しかし、この十数年の間に目覚ましい進歩を遂げている薬物療法については今後更なる進歩が期待できるものと思われれます。簡素で効果的で生活機能に影響を及ぼさない薬が登場するのも、そう遠い未来の話ではないのかもしれませんが。

精神科レク さつまいも掘り・焼きいも

10月3日、病院の敷地内にある畑にて、精神科療養病棟の患者さま22名がさつまいも掘りを行いました。今年は豊作で、例年よりも大きなさつまいもがたくさん収穫できました。患者さまは、さつまいもの大きさに驚いたり、たくさん収穫できたことを喜んだりしていました。



11月7日、収穫したさつまいもで焼きいもを行いました。患者さまは、手分けしてさつまいもを包む作業や火おこしの作業に取り組みました。当日は、良いお天気でしたが、やや肌寒い気候でした。焚き火を囲みながら「温かいね」「ちゃんと焼けているかな」など、笑顔で会話する様子も見られました。



焼けたお芋は、午後のおやつの時間にいただきました。患者さまは、おいしそうに召し上がっていました。

介護療養病棟だより

認知症療養病棟での日々

介護主任 丸山 裕介

認知症療養病棟に入院されている患者さまにとっての生活の場は病棟です。その病棟で働く私たちスタッフの務めは、患者さま一人ひとりに残された機能を少しでも活かして、充実した生活を送ることができるようにサポートすることで、生活の質の向上を目指しています。そして、体調変化を早く見つけ、医師と協力し早期に治療を行い、患者さまの健康を少しでも維持させることが大切です。

普段の生活の中では、常に脳への刺激を考え、1日に3つの作業療法プログラムを様々な職種のスタッフが共同で行っています。具体的には、散歩や体操などの適度な運動（身体的活動）、料理作り・カラオケなどの趣味的活動、フラワーアレンジメント・音楽鑑賞などの芸術的活動を試行錯誤しながら実施しています。

また、病棟での生活の中で、特に大切にしていることは、患者さま一人ひとりにできることを行っていくことです。毎日の生活のことですからあまり難しく考えず、例えば入浴介助のときには、患者さまの洗える所は患者さま自身で洗っていただく。そんなことを行っています。

手を出し過ぎないように見守ることは身体の残存機能を維持するために大切なことです。これからはスタッフ全員が患者さま一人ひとりにあったケアを考えていきます。

介護療養病棟 作業療法プログラム

治療方針および各専門職による患者さまの心身の状態のアセスメントをもとに、集団活動参加へのグループ分けが行われ、週間プログラムに沿って、介護職員・看護職員・作業療法士が各活動を実施しています。

今回は、介護職員・看護職員が主に担当している、活動の一部をご紹介します。



○風船遊び 【身体的活動】

活動そのものを楽しみながら、患者さまの自発的な運動を引き出すことや座位バランス機能を高めることを目的として取り入れています。

風船は動きがゆっくりなため、患者さまも手を出しやすく、大勢で楽しむことができます。



○カレンダーづくり 【芸術的活動】

毎月、病棟のホールに飾る模造紙1枚分の大きさのカレンダーを作っています。

共同で1つの作品を作ることで他者との心地よい距離感を保つことができるようになる、遂行機能の維持や改善を図る、褒められることにより自己有能感を、完成することにより達成感を味わうことができる等を目的として活動を行っています。患者さまには、ぬり絵や下絵を切り取っていただくなど、できる作業に取り組んでいただいています。「できない」と言われる患者さまも、下絵と色鉛筆を手渡すと自然と色を塗り始めるといった様子もみられます。みなさんが笑顔で行っていただける活動の1つです。



食事療養部 紹介

ミサトピア小倉病院の食事は、1日3食、365日稼働の食事療養部により提供しています。療養病院である当院の食事は、『温かい家庭に近い雰囲気』という理事長の意向により、陶器の食器で提供しています。陶器の食器は重く、破損することもあるため、作業が大変な面もありますが、これからもできる限り、陶器の食器で食事を提供していきたいと考えています。

行事食

日々の食事の献立は、管理栄養士により栄養価や患者さまの嚥下状況等を加味し考えていますが、月に1度の行事食の献立は、日ごろ調理を行っている調理師により考えられています。当院の調理師には各々フレンチや和食等、得意分野があり、日々の食事とは違う行事食作りに役立っています。調理師の考えた献立のアイデアをもとに、栄養バランス・味・食べやすさなど調整を行い、献立が完成します。

行事食の提供当日は、スタッフ総動員で調理を行い、食事には献立を考えた調理師からのメッセージカードが添えられます。11月の行事食は、和食を得意とする調理師が、秋を満喫していただけるような献立を考えました。メインは、秋に旬を迎える鮭とさんまの吹き寄せ焼きで、人参やパプリカ、きのこなどの野菜で彩りも秋らしく仕上げました。小鉢の揚げ出し煮は、大根おろしの中にトンプリを混ぜ、食感も楽しんでいただけるよう工夫し、デザートのアチャコは、クリームチーズを使わず、豆腐やヨーグルトでヘルシーに仕上げました。

栄養バランスを考えながら、味と見栄えと季節感を織り交ぜることの難しさもありますが、今後もより良い行事食を提供できるよう努力していきます。



11月 行事食 おしながき

- ・鮭とさんまの吹き寄せ焼き
- ・なすと鶏肉の揚げ出し煮
- ・エビと糸瓜のお吸い物
- ・雑穀米
- ・豆腐のレアチーズ



3月 「にぎり寿司」



4月 「お花見弁当」

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

例年より早い降雪で、この先の降雪が気になる時期になりました。無事に6号を発行することができ、安心して年が越せますが、大掃除に年賀状と何かと慌ただしい年末になりそうです。来年も病気や怪我をすることなく健康に過ごしたいものです。

広報委員長 樋口 孝